

# 売薬の意匠あれこれ <その24> 売薬のポスター【その①】

一般社団法人 北多摩薬剤師会会長 平井 有 (ひらい・たもつ)

前回に引き続き今回は売薬の広告媒体のうち「美人の登場するポスター・広告」を取り上げてみます。

現代でもテレビやネット、雑誌など視覚に訴える広告、特に風邪薬や鼻炎薬などのOTC薬関係の宣伝には有名女優を使った広告が多く目に付きますが、戦前から昭和時代に

かけては現代以上にバラエティーに富んだ「美人の登場する広告・ポスター」がありました。画面で美人が訴えるポスターには一般消費者の目をより強く引き、宣伝効果がより大きく、より長い期間保存してもらえる利点があると考えられます。



戦前の独逸(ドイツ)バイエル製薬の鎮痛剤「ピラミドン錠」(日本薬局方アミノピリン)の広告も手書きで欧風美人が描かれています。



2020年10月まで販売されていたエーザイの「アストフリン(配合錠)」のポスターはクレパス画で描かれており、その他のポスターにも写真にはない手書きの良さがでたものに仕上がっています。



このポスターには社名だけで薬品名がないのですが、2005年に藤沢薬品と合併してアステラス製薬となった「山之内製薬」のポスターには黒澤明『七人の侍』にも出演したことのある「津島恵子」を採用しています。



これら3枚のポスターも写真にはない手書きの良さがでたものに仕上がりに、またこれらの女性の髪形、服装にも時代が映しだされたものとなり時代を感じることができます。

